

公立はこだて未来大学 2015 年度 システム情報科学実習 グループ報告書

Future University Hakodate 2015 System Information Science Practice
Group Report

プロジェクト名

フィールドから創る地域・社会のためのスウィフトなアプリ開発

Project Name

How to make delicious curry of Hakodate

グループ名

観光系グループ

Group Name

Tourism Group

プロジェクト番号/Project No.

3-C

プロジェクトリーダー/Project Leader

1013220 新保遥平 Youhei Shinpo

グループリーダー/Group Leader

1013068 岩見建汰 Kenta Iwami

グループメンバ/Group Member

1013001 池田俊輝 Toshiki Ikeda

1013068 岩見建汰 Kenta Iwami

1013167 山川拓也 Takuya Yamakawa

1013224 細川椋太 Ryota Hosokawa

1013228 横山翔栄 Shoei Yokoyama

指導教員

伊藤恵 奥野拓 原田泰 木塚あゆみ 南部美砂子

Advisor

Kei Itou Taku Okuno Yasushi Harada Ayumi Kizuka Misako Nanbu

提出日

2015 年 7 月 17 日

Date of Submission

July 17, 2015

概要

[illegible]

キーワード キーワード 1, キーワード 2, キーワード 3, キーワード 4, キーワード 5

(文責: 未来太郎)

Abstract

[illegible]

Keyword Keyrods1, Keyword2, Keyword3, Keyword4, Keyword5

(文責: 函館花子)

目次

第 1 章	背景	1
1.1	前年度の成果	1
1.2	現状における問題点	1
1.3	課題の概要	1
第 2 章	本プロジェクトの目標	2
2.1	目的	2
2.2	目標	2
第 3 章	課題解決のプロセスの詳細	3
3.1	各人の課題の概要とプロジェクト内における位置づけ	3
3.2	担当課題解決過程の詳細	3
3.2.1	未来太郎	3
3.2.2	北海花子	3
3.3	担当課題と他の課題の連携内容	3
3.3.1	未来花子	4
3.3.2	北海花子	4
第 4 章	結果	5
4.1	プロジェクトの結果	5
4.2	成果の評価	5
4.3	担当分担課題の評価	5
4.3.1	北海花子	5
4.3.2	北海太郎	5
第 5 章	今後の課題と展望	6
第 6 章	第 6 章 まとめ	7
6.1	今後の課題と展望	7
6.2	学び	7
付録 A	新規習得技術	8
付録 B	活用した講義	9
付録 C	相互評価	10
付録 D	その他製作物	11
参考文献		12

第 1 章 背景

/* 該当分野の従来状況、問題点、本プロジェクトで設定した課題、実施した解決策、及び成果を簡潔に記述する。 */

(文責: 北海花子)

1.1 前年度の成果

/* プロジェクトの分野の状況や、類似プロジェクトがあればその状況を記述する。前年度からの継続課題ならば、前年度の内容も記述する。 */

一般にカレーという料理は家庭でよく作られる。これまで多くの人がおいしいカレーの作り方について試行錯誤してきている。函館の特産品を用いた一般料理が少ない。前年度は、省略。

(文責: 北海太郎)

1.2 現状における問題点

/* 現状のままでは存在する問題点について、記述する。いわば当プロジェクトの存在意義 */
作るたびにカレーの味が変わる。いつもおいしいものができるとは限らない。

(文責: 未来花子)

1.3 課題の概要

/* 上述の問題点を解決すべく当プロジェクトの掲げる課題の概要を述べる。 */
地域の特色を生かしたおいしいカレーの作り方が課題。

(文責: 未来太郎)

第 2 章 本プロジェクトの目標

2.1 目的

本プロジェクトの目的は、中学校では実際にソースコードを書く練習をしていなく、中学生はソースコードを書こうとした時、どのように組んでいいか分からないため、ソースコードの組み方を学ぶゲームアプリを開発することである。

(文責: 皂勢也)

2.2 目標

本プロジェクトの目的は、中学校では実際にソースコードを書く練習をしていなく、中学生はソースコードを書こうとした時、どのように組んでいいか分からないため、ソースコードの組み方を学ぶゲームアプリを開発することである。

(文責: 皂勢也)

第 3 章 課題解決のプロセスの詳細

3.1 各人の課題の概要とプロジェクト内における位置づけ

/ 各人の担当課題の概要と、プロジェクト内における役割・位置づけを記述する。 */*

未来花子の担当課題は以下のとおりである。

4 月 Web からのレシピ収集・データベース化。

5 月 レシピの内容のグループ分け。

6 月 特産品 ** を含むレシピ検索。

7-9 月 特産品 ** を含むレシピ考案。

北海花子の担当課題は以下のとおりである。

4 月 草むしり。

5 月 畑仕事。

6 月 庭弄り。

(文責: 未来)

3.2 担当課題解決過程の詳細

/ 各人の担当課題の解決過程を詳細に記述する新規習得技術を必ず含むこと。 */*

3.2.1 未来太郎

4 月 Web からのレシピ収集・データベース化 Web の検索機能を用いて、レシピを検索した。材料と手順について、データベースを作成した。データベース化には、講義「**」で習得した**の手法を用いた。その際、**の技術を習得した。

5 月 まずは草むしりからはじめた。

(文責: 未来太郎)

3.2.2 北海花子

省略。

(文責: 北海花子)

3.3 担当課題と他の課題の連携内容

/ 各人の担当課題とプロジェクト内の他の課題との連携について記述する。 */*

3.3.1 未来花子

自分は Web からのレシピ収集を行ったが、そのデータベースは他の分野から収集したレシピをも入力するものである。データベース構築の際、* * の部分を担当した。以下略。

(文責: 未来花子)

3.3.2 北海花子

省略。

(文責: 北海花子)

第 4 章 結果

4.1 プロジェクトの結果

/* 問題点の解決のために製作・考案したものについて記述する。 */

地域の特色を生かしたおいしいカレーの詳細なレシピを 5 パターン作った。それは、以下のとおりである。

(文責: 未来)

4.2 成果の評価

/* プロジェクト全体の成果について、成果によってどのように上述した課題が解決されたか、成果の効果は当初の想定に沿っているか、残された問題点はあるかを記述する。 */

成果物のレシピを用いることにより、以下略。

(文責: 未来花子)

4.3 担当分担課題の評価

/* 各人の担当課題の成果について、成果によってどのように上述した課題が解決されたか、要求された役割は果たせたか、残された問題点はあるかを記述する。 */

4.3.1 北海花子

Web からのレシピ収集・データベース化 数多くのデータをデータベース化することによって、必要な情報を効率的に検索することができた。ただし手順・材料のデータの解析方法は *
* の点でデータが重複して得られることがあり、その点に関しては改善の余地があると考えられる。

ほげほげ ほげはほげであり、ほげほげである。

(文責: 北海花子)

4.3.2 北海太郎

(文責: 北海太郎)

第 5 章 今後の課題と展望

/* 成果について、今後の展開、改善すべき点などを、それによって期待される効果も含めて記述する。 */

今回は函館の特産物として* * ・ * *を用いたレシピを作成したが、季節によっては手に入りにくく、また高価になるため、たとえば季節ごとのレシピ展開が考えられる。

(文責: 未来花子)

第 6 章 まとめ

6.1 今後の課題と展望

今後は、現在のアプリ設計案を再考し、より具体的で一貫性がある設計案にしていく必要がある。また、実際にパズルゲームとしての問題を考え、それぞれの答えを用意することや実証実験や評価方法を適切に定める必要がある。また、制御文のソースボタンやフィードバック機能を実装し、教育アプリとしての体裁を整え、11 月に開催されるアカデミックリンクにてワークショップを開き、そこで得たレビューを活かしてアプリの改善を行うことが今後の展望である。

(文責: 自勢也)

6.2 学び

要件定義を固めずに実装を行ったため、プロジェクトの目的を見失い要件定義を一から考え直すことになった。そのため、時間をかけて、要件定義をやり直すことの重要性を学んだ。また、議事録を残していないことがあり、情報共有がうまくできていなかったことからドキュメントを残して、情報共有することの大切さを学んだ。

(文責: 自勢也)

付録 A 新規習得技術

/* 課題解決過程に習得した技術について解説する。 */

付録 B 活用した講義

/* 課題解決過程において活用した講義について、講義名・活用内容を記述する。 */

付録 C 相互評価

/* 課題解決過程で分担し、連携した作業全般について、互いに客観的に評価する。 */

付録 D その他製作物

/* その他成果物をプロジェクトの担当教員の指示に従って添付する。 */

参考文献

- [1] 著者名. 書籍名. 出版社, 年号.
- [2] ほげほげお. うんたらかんたら, 2003.